

臨川書店版『定本 佐藤春夫全集』 未収録作品および書簡一覧

新宮市立佐藤春夫記念館編

【要旨】

臨川書店版『定本 佐藤春夫全集』（1998～2001年）には、佐藤春夫の作品および書簡が網羅的に収録されたが、その後、春夫遺族から多数の書簡が寄贈された。また、研究の進展により全集未収録の作品も相当数にのぼることが判明した。佐藤春夫記念館では、新しい情報の集約と公開に努め、全集完結以降、折に触れて経過報告を行ってきた。近年さらに新しい発見が続いていることから、ここでは従来の目録を集約し、さらに新しい情報を補って、現段階での総合的な目録を改めて公開することにした。目録は、全集未収録作品篇と書簡篇からなる。書簡の内容については、実践女子大学文芸資料研究所と協力して分析中であり、今後公開を予定している。

List of Sato Haruo's Works and Letters Not Included in the Rinsen Shoten Edition of "The Complete Works of Sato Haruo"

Sato Haruo Memorial Museum of Shingu City

The Rinsen Shoten edition of "The Complete Works of Sato Haruo" (1998 – 2001) aimed at comprehensively compiling Sato Haruo's works and letters. Nonetheless, many additional letters were subsequently donated by the bereaved family of Haruo. Further research has also uncovered a significant number of works that were excluded from the Rinsen Shoten edition. Since the completion of the Rinsen Shoten edition, the Sato Haruo Memorial Museum has actively worked to collect and publish new findings, regularly sharing progress updates. With the recent discovery of more materials, we have decided to consolidate the existing catalog, incorporate the newly identified items, and publish a revised and comprehensive catalog at this time. This updated catalog comprises works and letters not featured in the original Rinsen Shoten edition. The contents of the letters are being analyzed in collaboration with the Institute for Literary Materials at Jissen Women's University and will be made publicly available in the future.

はじめに

本稿は、臨川書店版『定本 佐藤春夫全集』に未収録の作品及び書簡の目録である。2024年12月現在、当館で把握できたものを、分かる範囲で日付順に掲げた。

これまでも、2008年3月刊行の「新編図録 佐藤春夫—多様・多彩な展開」（佐藤春夫記念館刊）で、臨川書店版「定本 佐藤春夫全集」未収録作品、書簡一覧を掲げ、2015年10月刊の「佐藤春夫読本」（勉誠出版刊）でも「定本 佐藤春夫全集」未収録作品及び書簡一覧を掲げた。今回はそれらの内容を継承した上で、従来のもとの誤りも訂正した。

なお、「知られざる佐藤春夫の軌跡」（河野龍也編著・2022年10月武蔵野書院刊）にも、「最後に使った手帖」など新資料の紹介があり、春夫宛て新出書簡9点が紹介されている。ほかに、河野氏発見に係る1904（明治37）年前半の春夫の日記「一寸光陰不可軽」がある（『年報』41号・2022年3月実践女子大文芸資料研究所）で翻刻）。

書簡については、2023年、ご遺族の高橋百百子さんより、いわゆる「家族あて書簡」というものが141点、本記念館に寄贈され、そのうち119点が未公開であることが確認された。新たにそれらも追加してある。

書簡については、特に「文壇落葉集」（川村湊・守屋貴嗣編著・2005年11月刊毎日新聞社刊）や、「神と玩具の間 昭和初年の谷崎潤一郎」（秦恒平著・1977年4月六興出版刊）などの書物で、すでに活字化されているものの中から、未収録の書簡が見つかったので、一覧として収録した。

当館では、実践女子大学文芸資料研究所の協力を得て、現在、未紹介の書簡の翻刻を進めている。別稿を期して紹介する予定である。

【凡例】

・それぞれの作品、書簡について、当記念館が所蔵するものについては「＊」印で表記した。

- ・作品の分類においては、創作（童話）、校歌、市歌、アンケート回答、内容見本推薦、作品評（感想）、俳句など、多岐にわたるが、ジャンル分けが難しい場合もあった。また、一部、座談、講演録と思われるものも収めた。
- ・「備考欄」で「既出」として注記してあるのは、「新編図録 佐藤春夫—多様・多彩な展開」（佐藤春夫記念館刊）と、「佐藤春夫読本」（勉誠出版刊）で、すでに紹介済みの意味である。さらに、当館が毎年発行している「佐藤春夫記念館だより」に紹介したものについては、「館だより」として、号数を表記してある。「知られざる佐藤春夫の軌跡」からは「春夫の軌跡」と簡略して記した。
- ・「備考欄」には、関連情報を記し、書簡については、読み取って興味ある内容を簡略して記しておいた。
- ・「書簡一覧」において、封書等の日付については、封筒のある物は消印等を中心に摘出したため、一部書簡本文の日付とのズレが生じているものもある。内容から、年月日を推定したものについては、宛名前にその旨を表記した。
- ・所蔵者については、公の機関のみ記し、日本近代文学館、神奈川県立文学館、和歌山県立図書館等は「日近代」「神奈文」「和県図」と言う風に、欄を設けて簡略して注記した。
- ・「文壇落葉集」と「神と玩具の間」所載の分については、「文壇」「神と玩具」と略記した。
- ・作品名として、今日から見て明らかに差別用語と思われるものもあるが、著者がすでに死去していることもあって、歴史的資料としてあえてそのまま掲載した。
- ・文責は辻本雄一、森奈良好。なお、整理、点検にあたっては、記念館職員阿部知子、増田由希子両名と、元職員三峪さわ代氏の、手も煩わせた。河野龍也氏からも助言を受けた。

2024 年 12 月 佐藤春夫記念館

全集未収録作品一覧

No.	出版等年月日(和暦)	ジャンル	作品名	掲載誌等	備考	新編同時 春夫読本
1	明治37年1月1日	日記	一寸光陰不可軽(1月1日～7月29日)		香蓮女子大学文学部研究『年報』第41号 佐藤春夫関係日記断片(一)―明治三十七年―	
2	明治42年10月20日～ 10月24日	戯曲	環さめ	熊野実業新聞	『日本文学』1980年4月「佐藤春夫の処女戯曲 ―「環さめ」発見に寄せて」	既出
3	大正11年11月22日	私信の一節	私信の一節	『時事新報』大正11年11月22日付		
4	大正2年2月?	月夜に恋人に逢ふうた	月夜に恋人に逢ふうた	『精選近代文芸雑誌』2巻2号	早稲田大学図書館	
5	大正2年12月	短歌	げふこのごち何をせと人のとひければ たゞ見れば なんの苦もなき水鳥の足にひまなく遊びをるなり	『会報』(新宮中学同窓会) 第6号		既出
6	大正3年3月1日	作品評	佐藤春夫選	『読女』第10年第3号		
7	大正3年4月1日	作品評	佐藤春夫選	『読女』第10年第4号		
8	大正3年5月1日	作品評	佐藤春夫選	『読女』第10年第5号		
9	大正4年2月1日	作品評	佐藤春夫選	『読女』第11年第2号		
10	大正7年	遠近消息	『民衆の芸術』第1巻第2号			
11	大正8年4月1日	創作	『少年物語』苦しむ人	『少年倶楽部』第6巻第5号		
12	大正9年2月8日	『千一夜物語』		『報知新聞』		
13	大正9年4月1日	アンケート	文士となった動機、文士生活の苦と楽 現代文士の本 図に寄せられた解答	『中学世界』第23巻第5号		
14	大正12年7月1日	アンケート	若き俳優たちの研究劇団へ贈る書	『演芸画報』合同第10年第7号	門外漢として簡絶 「人死にぬ」で始まる。「711頁目」に注記。	
15	大正12年7月11日	詩	無題	『東日新聞』		
16	大正12年9月1日	童謡	小猫と鏡	『少女の花』第2巻第9号		
17	大正13年1月1日	*	童謡 熊と豹とどうしてなかがわるいか	『子供之友』第11巻第1号	婦人之友社	
18	大正15年2月4日	談話	文芸講座「精神的ラヂオ」(速記録)	『春夫の軌跡』		
19	大正15年6月1日	詩	枯柳寒蟬	『ニッポン』創刊号(文学世界社刊)		
20	大正15年7月30日	演劇1, 2	新涼断片	『山陽新報』第15624号、第15625号		
21	大正15年10月1日	新涼断片		『俳諧雑誌』第1巻第7号		
22	大正15年10月	秋を愛す		『若草』第2巻第10号	久保田万太郎監修。 口能雪真「佐藤春夫氏と民子夫人」、竹久夢二 のイラストも。	既出
23	昭和2年5月17日	悲劇とは何		『京城日報』	『丸太日文』(2010年10月刊)に藤基輔「佐藤 春夫未収録資料」	
24	昭和2年7月30日	俳句 「行春のカメラ行脚や那智の瀧」「千早ふる神之倉山 春の風」		『婦士資料 熊野大観』第2輯千穂集		既出
25	昭和2年12月1日	金工を習て		『中央美術』第13巻第12号	文末に(報知新聞)とあり。同紙からの転載か。	既出
26	昭和2年12月1日	*	講演 我が国現代の文学に対する要求と希望	『青年公論』昭和2年12月号(第10巻第12月号)		既出
27	昭和3年6月1日		『済度の道』の訳稿に就て	『改造』第10巻第6号	訳者インダからの亡命者サキハルの消息	既出
28	昭和3年9月1日	断片		『演劇改造』第4号第1号		既出
29	昭和3年9月2日	星の黙示		『科学画報』第11巻第3号	紀伊長輪昭和5年9月2日、3日、4日に一部再録	既出
30	昭和3年11月1日	*	吾家の対話	『文学風俗』創刊号		
31	昭和3年11月		菓子と文明との関係を論ず	『甘味』(お菓子随筆) 双葉房編集	文末に日付記述、初出不明。昭和16年2月26日 刊	既出
32	昭和3年	*	内容見本 子供は大人より複雑	『子供研究講座』	刊	
33	昭和4年4月1日	*	恋文のことその他	『思郷』第83号	日本面談再教育協会 先進社刊全10冊 再刊号。	既出
34	昭和4年4月1日		談話 親友交談	『離像』第9巻第1号新年特大号		
35	昭和4年8月12日		藝術家としての子供	『いとしい』創刊号	(日本面談再教育協会 編集期間に春夫の名) 先進社。全十冊。昭和4年8月刊行開始。	既出
36	昭和4年?	*	内容見本 大衆のよき書物	『一平全集』(『脚本一平全集』)		

37	昭和14年?	*	内容見本	廣の民衆詩人	『白粉全集』				既出
38	昭和15年1月1日			重訂集『雀をどり』に序す	『雀をどり』(加藤四朗著)				既出
39	昭和15年2月1日			岸田劉生を弔ふ	『アトリエ』 第7巻第2号				既出
40	昭和15年5月1日	*		人の言葉三つ	『あけぼの』創刊号				既出
41	昭和15年7月5日			序文	上山真人著『素顔のハロウウッド』				既出
42	昭和16年1月1日			何かまはん	1931『愛読者日記』(中央公論社)				既出
43	昭和16年1月7日			一家談者より	『雑味』 第4号				既出
44	昭和16年2月7日			短歌	神代種亮宛書簡				既出
45	昭和16年5月10日			かりそめに 七年かほと ばくみし 子故妻かたき	『週刊朝日』 第19巻第22号				既出
46	昭和16年9月10日			雀の宿のお客さんになつたカナリヤ	『雑味』 第3号				既出
47	昭和16年10月1日~10月4日			【無題】	京城日報				既出
48	昭和16年			二科一まわり(一)~(三)	日本学生航空連盟学生防敵飛行記念絵葉書				既出
49	昭和16年	*	内容見本	詩 学生防敵飛行を送る 離陸の歌	『世界文学大全集』(第一刷・改造社)				既出
50	昭和16年春?			何度読んでも越さないさがは名家	神代種亮宛書簡				既出
51	昭和17年1月1日			俳句 春晴やまた志す水彩画	山陽新報 第17889号、京城日報1月13、14、17、20日(4回連載)				既出
52	昭和17年5月25日制定	*		朗読 最後の一案	『アサヒカメラ』正月増大号				既出
53	昭和17年9月27日			校歌 大阪高等女子職業学校校歌	『新演劇』 第2巻第2号				既出
54	昭和17年11月1日			新緑の紀州	『新演劇』 第2巻第2号				既出
55	昭和17年11月1日	*		わが愛唱の詩歌	『南紀大衆雑誌』 創刊号				既出
56	昭和17年12月			筆記 夜木山房詩話	『婦人之友』 第27巻第11号				既出
57	昭和18年1月1日			談話 家の中至る所の窓の下即ち私の書斎	『日本短歌』 第7巻第2号				既出
58	昭和18年4月1日			『水河』序	『住宅』 昭和17年12月号				既出
59	昭和18年7月1日	*		アンケート 読んだ本と読ませたい本	『米河』 水戸敬之助著				既出
60	昭和18年10月5日	*		筆記 夜木山房一ダ話	『児童読物研究』 第2巻第1号				既出
61	昭和19年1月1日			君に期待する所以	『日本短歌』 第2巻第7号				既出
62	昭和19年2月1日			【文芸家の肖像】自分の写真に題す	『秋一季刊』小山書店だより				既出
63	昭和19年4月5日	*		豊田豊氏作の「狩野芳崖」のためのはしがき	『新演劇』 第2巻第2号				既出
64	昭和19年4月5日	*		序	『たぬしえんが』(チャペック作 桑一郎訳)				既出
65	昭和19年4月5日	*		夕伽阿シオトリ	『セウガク』 第15巻第10号				既出
66	昭和19年4月5日	*		短歌	『富士』 第4巻第7号 (出版社発行)				既出
67	昭和19年6月4日			講演 春されば 庭の隅なる一本の つらつら構 をとめびすも	『富士』 第4巻第7号				既出
68	昭和19年6月4日	*		講演 春さるの立場から見た出版界	『演劇』 第2巻第2号				既出
69	昭和19年6月5日	*		詩 有量正文少将の謀	『週刊朝日』 昭和19年10月20日号				既出
70	昭和19年6月14日			露台雑感	三角實著『明治大正昭和日本動輿秘史』				既出
71	昭和19年9月20日	*		アンケート 名工推薦 愉快な我が友	南紀新報				既出
72	昭和19年10月1日	*		序	佐藤一英著『新語録』				既出
					『セタン』日本 第6巻第10号				既出

73	昭和10年11月5日	推薦文 學藝の綻放の為に	日本學藝新聞 第1号	新聞文藝社	
74	昭和11年2月	* 内容見本	『日本名文選集(厚生版)』		既出
75	昭和11年3月1日	熟睡はこれ後達の義務	『婦人之友』 第30巻第3号	「写真」は服部時計店の裏である」に始まる。	
76	昭和11年7月1日	野を運ねた食べもの屋	『婦人之友』 第30巻第7号		
77	昭和11年11月1日	文と人との合作風景 西湖の美	『マツダ新報』 第29巻第11号 (東京電気株式会社発行)		
78	昭和11年	ともひ			
79	昭和11年	* 内容見本 長編小説の呼称に	『フランドル現代小説』 (第一書房)		
80	昭和11年	* 内容見本 無題(推薦文)	『世界短編傑作全集』		
81	昭和12年1月1日	創作(重題) 先生スズメ、5、6、7	『セウガクニ年生』 第12巻13号、『セウガクニ年生』 第13巻第2号、第13巻第3号、第13巻第4号	武井武雄画	既出
82	昭和12年1月5日	創作(重題) 昭五サン・ナンザイ	『小学一年生』 正月増刊号 第12巻第14号		既出
83	昭和12年2月	急進文学入門指針	『大衆迅全集』 月報1号		
84	昭和12年5月1日	アンケート	『大衆迅全集』 月報1号	底に鳴くうぐいす。絵も	
85	昭和12年9月1日	アンケート	『編纂』 楽書をしたいと思ひませんか あの人顔の人の言葉 この風景 今度の旅の記念帳に控帳に	あと宮城日報(3回連載) 九州日報、高知新聞等掲載。後掲発表について水沢不二夫「研究ノート」	既出
86	昭和12年9月1日	創作 律儀者	『モダン日本』 第8巻第9号	特集「新三好麻土記より引用」。	
87	昭和12年	俳句 トンネルを 出でて朝顔の さかりかな	『小学六年生』 第17巻第6号		既出
88	昭和13年2月25日	* 短歌 タサレは浦の兵木崎真白に衣裾を運び街に咲く	同盟特信		
89	昭和13年5月10日	講演(若い頃)に描いた野心と空想	『鎌倉ペンクラブ選集』 P. A727		
90	昭和13年12月27日	文学的身の上話 上(初めて原稿料を貰ふまで)、下	『下重町誌』(昭和3年2月25日発行)		
91	昭和14年1月1日	* 詩 事象と青年 南条育英会に於ける佐藤春夫氏講演要旨	『京橋日報』 第10954号		既出
92	昭和14年1月30日	創作(重題) 支那犬「クロ」	『新美術英會會報』 第57号		
93	昭和14年6月1日	詩 寄舞麗庵序	『詩と美術』 第2巻第1号		
94	昭和14年7月1日	アンケート 趣味の収集品	『族』 第10巻第6号		
95	昭和14年7月28日	詩他 我が貧弱なおみやげ	『中支派遣 海軍作歌軍記』	(海軍省海軍軍事普及部校閲) 削除した部分もある。	
96	昭和14年10月30日	総泉堂歌歌如序	『冬枯』 第10巻第7号	6月27日懇談会にて母永照。この歌は、昭和14年7月10日付佐藤智恵子宛て書簡にもある。	
97	昭和14年11月1日	無隣庵にて つゆ晴の風あかくくれんとす	『詩と美術』 第3巻第5号	春夫終焉。	
98	昭和14年?	和紙の月、鼓後の月	『モダン日本』 第10巻第11号	「月に寄せて 鼓後より前線への便り」の項目	
99	昭和15年1月1日	内容見本 無題(推薦文)	『新日本少年少女文庫』	中国語文	
100	昭和15年1月20日	* 創作 中国文学與我的因縁	『華文大坂毎日』 第3年29号		
101	昭和15年4月1日	老朋友	『週刊朝日』 新春談物号		
102	昭和15年4月20日	* 半壁山附近	『山小屋』 第99号 昭和15年4月号	春夫のスケッチも。	既出
103	昭和15年4月25日	* 古川北華個人展覧会 題文	古川北華著「雲集」	昭和32年5月25日刊の序文採用	
104	昭和15年?	* 画壇の詩人放電	『詩と美術』 第2巻第4号	特集「小坂龍、吉井勇、石井鶴三ら六名執筆。	既出
105	昭和16年3月1日	* 内容見本	『現代支那文学全集(装訂佐藤春夫)』	東成社全十二巻	既出
106	昭和16年3月1日	* 刺題「漁村曙」	紀伊新報		既出
107	昭和16年7月20日	* 作品評「連評」	『豫科會誌』 122号		既出
108	昭和16年7月20日	* 序	高須茂著「特かなる夢聲」	高須は竹田龍児の友人。	既出

108	昭和16年8月1日	アンケート	盛夏特輯スタイル問答	『スタイル』 第6巻第8号	『イラスト』 第6巻第8号	既出
109	昭和16年9月7日		第三回 北華個展を見る	『國畫』 第1巻第1号	五月十七〜十九日、芝、東京芸術倶楽部	既出
110	昭和16年11月27日	*	内容見本 明治大正昭和の風俗文化史	『長谷川時雨全集』	既出	既出
111	昭和16年12月25日		熊野なまり	『閑斎英言會報』 第63号	既出	既出
112	昭和16年?		詠本「年を歴た野の話」はしがき	『年を歴た野の話』(レオポール・シヨヴオ原作・山本夏彦訳)	既出	既出
113	昭和17年2月1日		ひとりすみれ物語2、3、5、7、8、10、11	『日本女性』 第2巻第2号、3号、4号、6号、7号、9号、10号	既出	既出
114	昭和17年3月11日	*	抗日中国青年諸君へ	『大陸新報』 第1153号	特別寄稿。	既出
115	昭和17年7月15日	*	序	三宅幾三郎著『山麓』	文化学院の教え子。三宅追伸文(昭和十七年六月二十一日夜記)	既出
116	昭和17年10月5日	*	緒言	杉山正治著『志士詩文集』	既出	既出
117	昭和17年11月1日		『鑑賞と書き方』女性の手紙	『日本女性』 11月号	既出	既出
118	昭和17年12月1日		十二月の言葉	『文芸』第10巻第12号(大東亜文学者会編号)	既出	既出
119	昭和17年12月1日		創作をよりの旅	『日本女性』 第2巻第12号	大陸雜誌社	既出
120	昭和17年12月1日		解説『をよりの旅』解説	『日本女性』 第2巻第12号	大陸雜誌社	既出
121	昭和17年12月1日		創作? 新しい命を求むる人々	『日本女性』 第2巻第1号	述賢堂・ウアリニア館の事。	既出
122	昭和18年1月10日	*	中川一政氏の絵	『重譜』 第17号	(昭和十七年夏日)	既出
123	昭和18年5月1日		わが詩学—(詩の読み方、作り方)—	『あきつ』 昭和18年5月号	(未完)とあって後記に「当号から数か月にならぬと掲載」である。	既出
124	昭和18年5月20日	*	喰へる雑草 序	織田一磨著『喰へる雑草 自然科学と芸術』	既出	既出
125	昭和18年8月10日		序文	黄氏風姿著『臺灣の少女』	黄氏風姿著、編輯池田敏雄。	既出
126	昭和18年9月20日		芸術家の観た子ども—という題に答へる管見—	『わが子の教育第一巻 子どもとはどんなものか』	既出	既出
127	昭和18年10月1日	*	結婚と日本の情風	『日本女性』 10月号(第3巻第10号)	既出	既出
128	昭和19年7月9日		デング熱と南十字星	『週刊朝日』 第46巻第2号	既出	既出
129	昭和19年12月20日	*	詩 異議の新春	『日本女性』 第2巻第1号	既出	既出
130	昭和19年頃		詩 まごころの歌—歸來友に示さんとして—	—	既出	既出
131	昭和20年1月1日	*	詩 必勝の春	『大陸新報』	既出	既出
132	昭和20年2月1日	*	詩 ジャワの雨	『大陸』1946年2月号	既出	既出
133	昭和20年2月1日		詩 神経戦を語る	『新著人』 第6巻第2号	既出	既出
134	昭和20年8月15日		短歌 職をやめんとす大御心推しまつれば最、こざにせき	春夫の軌跡	既出	既出
135	昭和20年9月25日		俳句 虎とんぼ佐久の大野に進駐す	春夫の軌跡	既出	既出
136	昭和20年12月1日、昭和21年2月1日		実止 千萬な時評(一)(二)	『公論』 昭和20年12月号、昭和21年1・2月号併号	既出	既出
137	昭和20年		短歌 けふわが身山路に待つとよきひとのわれにたまひし	春夫の軌跡	既出	既出
138	昭和20年		俳句 唐きひの向ふに低し八つが嶺	春夫の軌跡	既出	既出
139	昭和20年		俳句 きのふける佐久の大野は時雨けり	春夫の軌跡	既出	既出
140	昭和20年		短歌 ふるさとの園をおもひて疎開者の春のすさびに成れるものこれ	春夫の軌跡	既出	既出
141	昭和20年		俳句 秋風や時に古城にのぼる人	春夫の軌跡	既出	既出
142	昭和21年4月1日開校、制定		校歌 国立豊浦病院付属高等看護学院校歌	—	既出	既出
143	昭和21年4月		借書に住民	『信州及信州人』 第5巻第4号	既出	既出

144	昭和21年6月1日	自由の道	青年に示す他山の石	『青年文化』 第1巻第2号	『青年文化』 第1巻第2号	
145	昭和21年9月1日	葉書回答		『マドモアゼル』 昭和21年9月号(第1巻第1号)	昭和21年10月刊の「日本文芸の道」に附載して収録	既出
146	昭和21年9月10日	風流新語—西行法師に就て語る—		『風流』第一輯		既出
147	昭和21年11月1日	詩映画教		『睡人形』 第1巻第6号		
148	昭和21年12月1日	宿屋全集		『主婦の友』第30巻第11号		
149	昭和21年12月1日	北佐久竹枝併序		『はらけ7月号』	新装版刊1号。長野市千曲書房刊。	
150	昭和22年1月1日	詩映画讀		『シネマグラフィック』 第2号	表紙付き。猪熊弦一郎の画。	既出
151	昭和22年4月1日	理想の女性(マドンナ)を描く		『女性公論』		
152	昭和22年4月1日	警察官補談		『旭の友』第9号		
153	昭和22年7月30日	孝睦姉妹		『睡人形』 第1巻第2号		
154	昭和22年8月1日	無題		『国民教育』 低学年		
155	昭和22年8月30日	農家の生活		『シナリオ文芸』 第6号		
156	昭和22年10月1日	盲児 抒情詩人について		『詩風土』 第17号		
157	昭和22年11月15日	(遠近風流)		『古川柳』 第1巻第8号		
158	昭和22年11月25日	日本の新詩 一、二		『東葉』 復刊第1集 復刊第2集	復刊第1集(S22.11.25発行)、第2集(24.5.25発行)	
159	昭和22年11月30日	春夫選十四首(「百枝」)(終読選のみ)		『歌と國畫』 昭和22年11月号 第2巻11号	佐々木正夫選「若つつち」十四首を掲載。同題の小冊子への寄稿。ルドンの絵を修復してもらう。川端康成も寄稿。	既出
160	昭和22年頃	油絵の保存修復の研究に感嘆を志す 高田力蔵君の趣旨			新日本農民歌人連盟発行。後記に春夫から三百円の寄付を受けたとある。	既出
161	昭和23年2月1日	詩歌の道		『農民短歌』 第2巻第8号	タイトル自筆 長野県警察協会発行	既出
162	昭和23年3月1日	詩 耳鳴り		『睡人形』 第3巻第3号		
163	昭和23年4月1日	警察局の新使命		『旭の友』 第21号		
164	昭和23年4月15日	東西風流		『古川柳』 第2巻第4-5号		
165	昭和23年4月15日	宿屋の芸術		『歌俵』 第9号		
166	昭和23年4月18日	和歌山県民歌選評		毎日新聞	西川好次郎作詞、山田耕筰作曲。「和歌山県民歌の誕生」昭和54年制作のレコードカード抜粋。	
167	昭和23年8月10日	無題(信濃の山河欄)		『信毎情報』 8月号		
168	昭和23年10月1日	教育に何を求めるか		『教育社会』 第3巻第10号		
169	昭和23年10月20日	校歌 宿毛市立片島中学校校歌			水中真二作曲 ハノハノ第一、「花うばは故郷のやちにと似たるかな 蕨村」 NHKラジオ歌謡(曲木沢善人)。参考：朝日新聞昭和22年12月25日(木)「あゝの名曲をもう一度」	既出
170	昭和23年11月1日	アンケート 好きな土地と季節、植物、俳句(三)		『睡』 第3巻第2号	『八雲起出雲松園』を基かせた花柳舞臺遊去。読友新聞社	
171	昭和23年	作詞 ハロー・ジョオ			文芸学院歌え子小島真一の批評を導す。	既出
172	昭和23年	わたくしのお書斎さん		『睡』 第28号追悼号		
173	昭和24年2月1日	アンケート ハナキ回答 政府に国会に政費に		『月刊読売』7巻2号		
174	昭和24年2月10日	アンケート 名士にぞく 質問検討		『睡』 2月号		
175	昭和24年3月1日	ことば		『詩風土』 2月号		
176	昭和24年5月22日	緑の世界		西日本新聞		
177	昭和24年5月25日	龍神日記		『睡』3号		
178	昭和24年	町歌 高野町の歌			初出来詳「山と湯の仙鶴龍神」の記事に引用あり 高野山和詩は、高野町の歌を翻詩歌として新しく作曲したもので、町歌の作曲は信時潔、和歌の曲は朝霧紅山。	既出
179	昭和25年11月30日	* 趣味無限のゆかしさ		『ダムギャラント』(一龍城伝下巻—ブランドーム作—小西茂也訳)	園の春。	既出
180	昭和25年12月1日	アンケート 一九五〇年文壇の自己決算		『文藝俱樂部』 第5巻第10号		

181	昭和26年2月1日～27年1月1日	*	創作	初恋ひと 第3章、第5章、第9～12章	『新婚人』6・2～7-1	校閲、注解つきで『熊野新聞』2017(平成29)年4月9日～9月28日まで50回にわたって全編掲載(「白照雨」主人公の半生)	既出
182	昭和26年3月30日	*	俳句	唄り来て今ふさとの春深し	『熊野誌』第12号(熊野文化会)	若林祐一に	既出
183	昭和26年3月31日			故郷の旅人	紀南新聞		
184	昭和26年5月1日	*		新緑の旅人	『電信電話』第2巻第5号		
185	昭和26年7月21日		中歌	ノ ケキソヤツナキ 「玫瑰や夢根に石おく溪の小屋「流れ木や砂丘つづきの玫瑰花」「下北はまなすうつきあすならう」「夏車に流れ鐘を並ひたつ」「児まぐほし灰屋のはなの五、月晴」「唄けや唄け手習利の山のほととぎす」「卯の花の下北の野にさかりなり」「はねつるべうつき卯の花飛行場」「うぐいすに南都なまはりはなかりけり」「老鶯のみどりの雨になきしきり」「すがすがし万緑の外花もなく」「新緑を人にまかせてあすならう」「若根やげんの溪を領したり」「花うつきここにめでたく栄えける」	『教育広報』第5号	『原民喜の詩集』(羽白幸雄)に掲載	
187	昭和26年9月1日	*	アンケート	無題(装丁について)	『美術手帖』9月号		
188	昭和26年9月10日	*		修業百人一首講義序	土屋清作著「修業百人一首」		
189	昭和26年9月25日	*		解説	永井荷風著「夏すがた・二人妻・花火」(創元文庫)	一部分が未収録	
190	昭和26年		詩	「無題」		昭和26年「はわんち」創刊巻頭「熊を鑑賞の後生に寄す」で始まる、海南高校生徒作品。昭和51年8月26日付毎日新聞和歌山版高校風土記海潮(36)に引用。	
191	昭和27年3月10日		俳句	しぐるるや燗弾強けの城壁に	『続編』宮本篤 記	淳川高等学校報 S26.11.17に掲載してもらったもの	
192	昭和27年3月10日		短歌	山山は紅葉せるなり燗弾の作用によりてなりしにあらず	『続編』宮本篤 記	淳川高等学校報	
193	昭和27年3月10日		詩	平相国が在りし日の、栄華の夢は廻廊の、柱に寄する春秋の潮の上に浮びたり、煙気楼(カイヤウラ)よりおこそかに	『続編』宮本篤 記	淳川高等学校報	
194	昭和27年3月14日		校歌	線馬第二小学校校歌	『創作園』随刊号	作曲信時潔	既出
195	昭和27年4月10日	*		文学者と社会	『三田文学』第42巻第3号		
196	昭和27年5月1日	*		無題(番茶の後)	『海上岩礁』12月号		
197	昭和27年12月20日	*		海もきらひ船もきらひ	『萬葉集大成』		
198	昭和28年3月	*	内容見本	萬葉集から受けた恩恵			既出
199	昭和28年11月1日	*		わが食生活——山猿の美味論	『月刊食生活』昭和28年11月号(第47巻第11号)	熊野誌60号で紹介。	既出
200	昭和28年12月17日			若林芳樹に与ふ——小生の詩碑建つてもよし建たざるも好し	紀南新聞	熊野誌12号に再掲、同紙11月22日付に若林芳樹「佐藤香雪の評傳にてよ」	既出
201	昭和29年2月25日			漢詩をどう読むか	『高等漢文二』(三巻堂)		
202	昭和29年2月26日			語誌管見	『高等漢文二』(三巻堂)		
203	昭和29年3月18日	*		真の芸術映画二つ	『月刊ア・エ・セ』第6号	日仏友好芸術と文化」刊	
204	昭和29年7月1日			観光都市 新宮市の構想	公民館報「しんぐう」第2号		既出
205	昭和29年7月13日		俳句	芭蕉葉に蝸牛を置くや五月晴	『長句反句集』昭和39年10月23日初版	石堂詩人社	

206	昭和29年9月1日		「菓子屋乾羅 作者の言葉	『新装開場 九月新派大合同』	『舞台』10月号、新派大合同特別短期十月公演、四條南座、吉井勇脚本、永井輝子演出、水谷八重子ほか出演。
207	昭和29年9月16日		推薦文 この本を語れ！	『少年世界文学めぐり』	大阪書籍
208	昭和30年1月1日	*	『序』	中込郵政『詩集 晩後』	『昭和甲午源秋佐藤春夫記す』
209	昭和30年1月1日		詩 半世紀前の新年	『文芸』一月号 第7巻第1号	無野病院風景も。
210	昭和30年3月1日	*	アンケート あなには啄木の文学をお好きですか？	『文芸』臨時増刊 石川啄木読本	
211	昭和30年3月1日		鯉のさしみ	『主婦の友』第39巻第1号	『たべ物風土記』和歌山
212	昭和30年3月1日	*	創作(童話) ヤッコがらすのこと	『小学四年生』四月特大号	浪速編集室
213	昭和30年4月1日		詩 青き花 歩々に開きて 萬物は 我をめぐりて 運行す	『小学四年生』四月特大号	
214	昭和30年5月26日		創作(童話) 有明陸五郎という魚のはなし	『浪曼』第1号	
215	昭和30年8月1日		アンケート 「エイルペン」を推す〔好きな小説 感激した場面〕	『五年の学習』八月号 第10巻第5号	『フランス現代小説』に寄せられた諸家の推薦
216	昭和30年9月1日		龍野まできた学生、法政大学校歌の作者として一	『新潮』第52巻第9号	特集 大学と学生
217	昭和31年12月1日	*	作者の言葉・海辺の恋	『法政』第4巻第12号	
218	昭和31年1月1日	*	春犬フォーム(ひい・ふる)	『婦人生活』新年号、第10巻第1号	
219	昭和31年1月1日	*	詩 南島迎春歌	『芸術新潮』第1巻第1号	
220	昭和31年5月20日		アンケート わたしのく(に)のうまいもの(鹿六のうなぎ)	沖縄タイムス	(日本交通公社)ちなみに西村伊作は「脇のなれすし」こぶの巻すし」を上げる。
221	昭和31年5月30日	*	杜子雄短編集	菅原杜子雄著『杜子雄短編集』	臨風新報社
222	昭和31年8月8日		撰文 太宰治文学碑建碑に至る因縁文	『臨風新報』	『わしが国さの食いものじまん』欄、脇のさしみ、秋刀魚のなれ飯など上げる。
223	昭和31年8月10日		アンケート 海の幸	『月刊食味』(四号)	
224	昭和31年10月10日		追悼歌 天上の楽地に絶えて、……	『宮城会報別冊 宮城道雄追悼』	
225	昭和31年11月1日	*	創作(童話) ジャックと豆の木	『こどもクラブ』(創刊号(東雲堂))	三行37節から成る。画武井真雄。
226	昭和31年11月1日	*	童謡(しんじ)ジャックと豆の木のこと	『こどもクラブ』(創刊号(東雲堂))	
227	昭和31年12月25日	*	助美的な芸術のなかの哀愁	権一雄著『女の山夢』	カバ―袖に貫
228	昭和31年	*	作詞 鹿蹄の歌	権一雄原作映画「夕日と巻紙」パンフレット	作田平井康三郎 唱伊藤久男
229	昭和31年	*	内容見本 最も美しく有益な	『世界風流文学全集』	臨風新報社
230	昭和31年?		内容見本 日本人の求めた美と真実	『少年少女のための国民文学』	劇場公開日は昭和31年9月18日
231	昭和32年1月20日		講演 みずの志(こころ)	『須賀太家(すざたけ)』創刊号 (松本美須々丘高等学校図書蔵)	福井書店全15巻、福田清人編集。
232	昭和32年1月		印刷物 賛助会員倍加についてお願い	無題 志(こころ)	
233	昭和32年1月		印刷物 『むさうあん物語』発行についてお願い	無題 志(こころ)	
234	昭和32年2月1日	*	抜込み葉書(印刷)	『自選佐藤春夫全集』	発行人 佐藤春夫他
235	昭和32年10月15日	*	句集 恵縁候	遠山壺中『句集 恵縁』	読者を原作のための依頼
236	昭和33年5月1日	*	悪女礼讃	『婦人画報』5月号 (第645号)	既出
237	昭和33年5月15日	*	五十沢二郎といふ人	『限定版手帖』第18号	既出
238	昭和33年6月25日		創作(童話) さるまわし―佐藤春夫さんのお話―	『ここに光を 四年生』(編集 日本児童文学者協会「実業」日本社刊)	既出
239	昭和33年8月		校歌 糖々京中学校校歌		(やほんな書房、校歌著)全集4巻に「五十沢二郎が選者に贈る校文」掲載。
240	昭和33年8月		俳句 雷さまは遠稲妻をためかす		
241	昭和33年10月		校歌 電田小学校校歌	『糖々京温泉史』(1991年2月 持谷靖子編)	既出
242	昭和34年5月5日		叙「白磁盒子」	井筒真穂著「白磁盒子」	既出

243	昭和34年6月1日		一国の文明と都市美観のために 人は便利のみに生くるものに非ず	『経済時代』 第24巻第6号	生	
244	昭和34年7月3日		〔三友消息〕橋の近況報告	『三友』10号		(七月開通の汽車で郷里へ一週間ほど旅行)とある。新聞型、三友会発行(北村清三編輯)
245	昭和34年7月4日～7日	*	鉄の熊野路を行く4、5、6、7	朝日新聞(名古屋版)		全世帯は1～3(全集収録)
246	昭和34年7月5日		市歌和歌山市歌			既出
247	昭和34年7月10日		詩老詩生			既出
248	昭和34年		作詞 新宮節22、23、24番	『現代詩選』第二集		市制60周年記念(作曲山田耕作)
249	昭和35年1月23日		俳句 梅が春に偲ぶべき友となりしか	紀南新聞		紀勢本線開通祝賀式のために、新宮観光協会依頼により作詞。なお、大正14年次作詞の1番と17番とは父豊太郎の作詞。
250	昭和35年1月		一日記〔十一月十五日〕	『週刊現代』		橋本新二退陣
251	昭和35年1月		少年少女のみなさんへ 一九六〇年のことは	『日本児童文学』		前年11月15日の記事。
252	昭和35年4月	*	内容見本 大系の名にそむかぬもの	『日本推理小説大系』		
253	昭和35年6月1日		木の国領	『月刊週末旅行』昭和35年6月号		全十五巻 東郷書房刊。
254	昭和35年6月30日		内容見本 衆智を聚めて要領のいい総合的編集	吉田耕一ほか編『日本近代文学辞典』		客員作編。紀勢半島の旅らんに「昭和五月歌」の全引用。
255	昭和35年7月15日		発声詩集あとがき	『現代五人集』1		春生の他に、堀口大学、西脇順三郎、三好達治、草野心平。
256	昭和35年?	*	内容見本 「芭蕉大成」を推す	定本『芭蕉大成』		三省堂
257	昭和35年春		撰文 万造寺齊歌碑撰文	『通信』 第三号		柳川市、菅原社子雄編集 全集2巻「断崖つれづれ草」にも掲載があるが、脱字、誤字、相違あり
258	昭和36年1月1日		鼻つまんぼの話	『the TAKASAGO times 高砂香料時報』復刊10号		
259	昭和36年1月1日		元日 貢すべし	山陽新聞		
260	昭和36年1月1日		南国熊野の風光	『婦人之友』 第55巻第1号		
261	昭和36年1月1日	*	わが愛する詩	『マドモアゼル』		「贈人曲(崔國輔)」(『玉笛譜』所収)について
262	昭和36年5月1日		祝辞 一葉記念館落成式祝辞	大東区立一葉記念館 開館五十周年記念誌		
263	昭和36年5月		茫然上人経団について	『日本絵巻物全集』 月報10		
264	昭和36年6月3日		鉄	『無為庵詩集』(伊藤節庵彦)		伊藤節は生田長江門下「わが同門の後輩」である。
265	昭和36年8月1日		中詩 外村紫甲詩	日本近代文学館		特別資料(自筆資料)
266	昭和36年8月15日	*	叙	『土屋竹雨遺集』		全30巻。カバ―袖に掲載。
267	昭和36年頃		知性と情懷を培う本	『世界少女名作全集』		四重光子全歌集記念講演会(昭和36年10月28日)
268	昭和37年1月1日	*	講演 文芸の国際性と郷土性	『潮音』 第48巻第1号		
269	昭和37年1月1日	*	〔新春随想〕 現代女性への忠告と期待	『マドモアゼル』		
270	昭和37年3月	*	内容見本	『外村紫全集』		
271	昭和37年4月1日	*	アンケート 「文芸首都」三十周年記念アンケート	『文芸首都』昭和37年4月号		
272	昭和37年7月5日		撰言文 「工藝臺と名づけては如何か」	『工芸台十年』 昭和47年11月1日発行		令和6年3月14付熊野新聞に、「春夫の涙を訪ねて」(松原良好)に写真と共に掲載。
273	昭和37年8月18日	*	尾関三郎歌集「午前十一時」叙	尾関三郎歌集「午前十一時」		新聞記者より。当館に出版記念会の写真あり。
274	昭和37年11月2日		「故郷の春」叙文	『なつ松五郎歌集』		広川松五郎は、スバル時代からの友人。紫色工芸家。大正末年、〇と夏を新宮の春犬毛で過ごす。西村伊作らと5交流。(発行二十日案)

275	昭和37年11月10日	*	叙	成富節子著「現代朗詠作曲集」	成富節子著「現代朗詠作曲集」	既出
276	昭和37年11月10日		重録	『天狼』第一七六号	『天狼』第一七六号	
277	昭和37年11月10日		短詩 作詩	端節節「皇落のふりあおぎ 見えなわす 鯉のぼり はたためける。」叙も記す。	「朗詠曲集の上巻」に寄す。「鯉」は昭和 三十七年暮春の候に誌す。 (昭和壬寅十月二十五日佐藤春夫)海、奥津岐 係も運動に寄せて。荒垣秀雄、畑中武夫らも参 加。	既出
278	昭和37年12月12日	*		藩八丁の失はれるを惜しみて	熊野新聞	既出
279	昭和37年12月22日			曉秋 初冬(能火野人)	朝日新聞PR版	既出
280	昭和38年2月15日	*		鹿民の食べる珍味二種	『奥秩手帖』78号(味の素刊)	既出
281	昭和38年2月25日	*		短創の人・川端龍子	『季刊 真珠絵と随筆』16号	既出
282	昭和38年4月1日	*		「愛をかたる」無償の行為	『マモアゼル』4月号(第4巻第4号)	既出
283	昭和38年4月		詩	狂画人ゴッホ我憐れむ	『芸術の園』(大石鐘一、編集兼発行)	
284	昭和38年9月1日	*		詩集「雪に埋もれた村落」叙	武井つたひ著『詩集 雪に埋もれた村落』	既出
285	昭和38年9月30日			このよき友を懐ふ	『長崎文化』第10号	既出
286	昭和38年10月1日		校歌	津和野小学校校歌	群馬工業高等専門学校記念誌	既出
287	昭和38年10月24日		俳句	松か枝に藤吹くほとけの風情あれ	『詩解漢和辞典』	既出
288	昭和38年12月	*	内容見本	詩解漢和辞典を推薦す	『詩解漢和辞典』	既出
289	昭和38年?	*	内容見本	愛好大いに尊敬する一人として	『言井勇全集』	既出
290	昭和39年2月1日		故園 今如何		『ふるさと』欄、室生犀星「金沢」も掲載。	既出
291	昭和39年2月24日		短歌	哭愛 福知美 おもかげやこたつの縁にうつくるゝわ が藤により眠りたる	春夫の軌跡	
292	昭和39年4月8日	*		島田詩館のために	島田詩館近作展展覧パンフレット	既出
293	昭和39年4月9日		雑考	雑考序の一篇	『能火野人十七首詩抄』因	既出
294	昭和39年5月5日		俳句	夏立つや目に黄なる花白き花	『ゆく春』第38巻第6号	
295	昭和39年5月6日		俳句	菌染の芽のややに黄びて青みゆく(たる)	春夫の軌跡	
296	昭和39年5月		内容見本	真実の豪華本「馬鹿」の一生	武者小路実篤著『馬鹿』の一生	
297	昭和39年7月1日		俳句	大神のやまと三山かすみけり「甘し酒三輪山は酔 ふ初もみち」草しや我には分に杉の舞」	社報「大美術」27号	既出
298	昭和39年		詩	田嶋裕之君墓碑文		
299	昭和44年6月1日		短歌	外国(とつづく)の春を問わまく做る果は 桜のたより 待つばかりなる	『三田評論』1969年6月号	

全集未収録書簡一覧

2024.11.26現在

No	館所蔵 有無	和暦		書簡種類	宛先	新編図録 著者註本	備考	所蔵元 公私立機関
1		大正1年10月22日		封書(封欠)	佐藤豊太郎		著夫の軌跡P206	
2	*	[大正6年16月29日 (年推定)]		葉書	佐藤豊太郎			*
3	*	大正7年11月17日		封書	佐藤豊太郎		奈良公園、四季亭にて(発信)。村田泥庵に市内を案内してもらった。	*
4		大正8年6月25日			谷崎精二	既出		
5	*	[大正8年12月1日 (年推定)]		封筒のみ	佐藤豊太郎			*
6	*	[大正8年12月]口日 (年月推定)]		封書(封欠)	佐藤豊太郎		「美しい町」などもゆくり書き上げてからならものになったののに、いそがしくて尚その上、中途から持っていくので台しになりました」とある。	*
7		大正9年4月18日		葉書	室生犀星		「結婚者の手記」送られたことへの礼状。感想も。	和県図
8	*	大正9年6月27日		葉書	佐藤豊太郎		大阪、村上旅館から発信。台湾出發直前。	*
9	*	大正9年8月27日		封筒のみ	佐藤豊太郎		打狗東氏方から発信。中身なし。	*
10	*	大正9年9月15日		封筒のみ	佐藤豊太郎		打狗から。中身なし。	*
11	*	大正9年10月20日		封書	佐藤豊太郎		大阪にて。台湾から帰着直後。「突然乍ら東京へ参ることに致し候」とある。下記電報も同封。	*
12	*	大正9年10月25日		電報	佐藤豊太郎			*
13		大正10年8月6日		封書	室生犀星		「何かと愚痴を申したこと沢山有之」とあり、青山南面の転居先の手書き地図。	和県図
14	*	大正10年8月8日		封書	運天鶴子		小田中タミとの婚姻前に交際していた女性を記す伝記資料。	*
15		[大正10年18月25日 (年推定)]		封書	室生犀星		本を送られたことへの礼状。「集中で、美しき水河といふのが好きだ」とあり、「昨日は一日くしきりしなけや」と返さながら送草の人こみや人通りのない小路を目的なしに歩き回った」とある。	和県図
16	*	大正10年11月19日		封書	佐藤豊太郎		「私はお正月のものを書き悩んで閉口してゐます」とある。住所 上目黒593の1	*
17	*	大正10年11月30日		封書	佐藤豊太郎			*
18		[大正10年以降]口月16日 (年推定)]		封書(持参)	滝田柳陰		本名 滝田哲太郎	日近文
19		大正10年口月23日		封書(欠)	ある新聞記者		「手紙講座」第4巻 昭和10年4月20日発行 平凡社	
20		大正11年5月16日		封書	室生犀星		18日4時頃遊びに行く。	和県図
21		大正11年7月13日		封書	室生犀星		子供死去を知っての悔やみ。	和県図

22		大正11年9月4日		封書	室生犀星		見舞の礼状、おできで、ホータイまでした病勢。	和果図
23		大正11年10月7日		封書	室生犀星		「葛藤院自稱童子の父なれば/さわやかな秋の胸をも身にまとい/そのかなしみを憂めかし 佐藤生」とあり、注記も付されている。	和果図
24		大正12年3月2日		封書	室生犀星		「愚書に對し貴兄の如き大い詠者」とあり、「秋刀魚、秋衣、二歌の詩境は小菊にとりていづれも捨てがたきもの、しかも世人ことごとく秋刀魚を数へて私に秋衣を無視するの風あり」とある。	和果図
25		大正12年12月6日		封書	室生犀星		「金沢の住みごこちいかに」とある。10月25日帰省、新宮から。昨晩できた詩として「故園院秋歌」の書付も。	和果図
26	*	[大正13年]5月16日	(年推定)	封書(封欠)	佐藤豊太郎		「北海道の方へ帰林することは私は賛成です」とあり、「夏にもなれば、北海道への、私自身で一度出かけで覧るつもり」とある。	*
27	*	[大正13年]6月1日	(年推定)	封書(封欠)	佐藤豊太郎		上記に続く書簡(夏みかん送ってほしい)に対し、「(夏みかん結構)。	*
28	*	大正13年7月11日		封書・書留	佐藤豊太郎		西信濃町二番地から。北海道行きに關しても。	*
29	*	大正13年11月4日		封書	佐藤豊太郎		大阪・北川旅館より。「ピノチオ」「退屈読本」二冊刊行。	*
30		[大正13年]口月口日	(年推定)	葉書	秋田高等女学校 石川誠		依頼の承諾。	
31		大正14年7月2日		封書	荻原井泉水			神奈文
32		大正14年8月15日			谷中安規		龍の原稿用紙	
33		大正14年11月5日		葉書	室生犀星		「小石川丸音羽町九ノ十八」への転居通知。	和果図
34	*	大正14年11月7日		葉書	佐藤豊太郎		音羽町9丁目18番地へ移転のこと。	*
35	*	大正14年口月口日		封書(封欠)	佐藤豊太郎		家の新築のこと。	*
36		大正15年2月27日		封書	芥川龍之介		日近文No311掲載	日近文
37		[大正15年]1、2月口日	(年推定)		芥川龍之介	既出		
38		大正15年6月25日		葉書	井上康文		「華陽なる十字街」五十五号の惠贈礼状。	
39	*	[大正15年]7月3日	(年月推定)	封書(封欠)	佐藤豊太郎		「毎日客が多いのには閉口です」とある。	*
40	*	大正15年7月23日		葉書	佐藤豊太郎		養老から。「物水之社繞るや岬之声」。堀口大学同道。	*
41	*	[大正15年]9月14日	(年推定)	封書	佐藤豊太郎		ラジオ放送「文芸講座」のこと。(澤夫の軌跡P202) 封筒日付と裏向。整理中に誤同じか。	*
42	*	大正15年11月27日		封書(封欠)	佐藤豊太郎		ピノチオは定価の8割ケ。「芥川君の書はそのうち出かけてかせませう、只今は先方も多忙、当方も多忙」とある。最上江への見舞い。	*

43	*	昭和2年4月17日	往復葉(往信)	佐藤豊太郎		「御無事御帰りの由安心」とある。みよ子が毎日祖父母に手紙。	*
44	*	昭和2年5月14日	葉書	佐藤豊太郎		改造社講演で長崎へ。民子も同伴。	*
45	*	昭和2年7月3日	封書	佐藤豊太郎		「一円全集の印税が一万八千円ほど」とある。上海行は10日の船。智恵子も同伴。	*
46	*	昭和2年7月12日	封書	佐藤豊太郎		中国への船中から。	*
47		昭和2年8月2日	葉書	吉井勇			日近文
48		昭和2年8月8日	葉書	吉井勇		広川松五郎連名	日近文
49	*	昭和2年9月5日	封書	佐藤豊太郎		「私の今度の収入」とある。秋雄洋行のこと。芥川全集の準備。	*
50		昭和3年4月24日	封書	佐藤豊太郎	既出	「秋雄を外国へやりたい」と思ひ、改選の世界大衆文学全集といふものを一冊引うけましたが、これはあまり好成績(順)と行かず、千枚書いて六千円ばかりにしかならぬらしいとある。	
51	*	昭和3年11月23日	封(秋雄持参)	佐藤百樹		「祖母上御逝去之悲報」とある。	*
52		昭和4年1月13日	封書	佐藤豊太郎	既出	「秋雄はこのごろ殆んど毎日ストオプへ温まりに参ります。只今も同席二月来には帰省するやう申してゐます」とある。	
53	*	昭和4年2月1日		小嶋政二郎	既出		*
54	*	昭和4年2月4日	封書	佐藤豊太郎		秋雄結婚の話。多美子の神経質も困つたもの。「近來、出版界もいよいよ極度の不安状態になり、くだらない菊池五小説でも書かねばは生計も立ちかねるらしく」とある。	*
55	*	昭和4年2月14日	封書	佐藤豊太郎		秋雄の結婚。智恵子まで大賛成。「神々戯れ」やつと本に。	*
56	*	昭和4年2月20日	封書	佐藤豊太郎		秋雄をめぐる女性問題、欧州出立前。	*
57	*	昭和4年12月12日	封書	佐藤豊太郎			*
58	*	昭和5年1月2日		佐藤豊太郎	既出		*
59	*	昭和5年2月17日	封書(封欠)	小林曹三郎		竹田龍児書写(龍児ノート記述より)。	*
60	*	昭和5年5月21日	封書	佐藤豊太郎		棺桶の件。生田春月の死に言及。	*
61	*	昭和5年7月2日	封書	佐藤豊太郎		「神経衰弱のため書けず」とある。谷崎の超多忙。岡本の谷崎方から。	*
62		昭和5年7月2日	葉書	妹尾徳太郎		大阪高等女子職業学校校歌に関する件。	
63	*	昭和5年8月10日	封書	佐藤豊太郎		谷崎宅から船旅の帰宅報告。「一面日中に真上」とある。	*
64	*	昭和5年8月21日	封書	佐藤豊太郎		館だより28号 新宮、内海病院入院中の父宛て。	*

65	*	昭和5年8月31日		小林倉三郎	竹田龍児書写(龍児ノート記述より)	*
66	*	昭和5年9月4日	封書	佐藤豊太郎	「點子の学校がまだこちらにするか東京になるか決定しない」とある。岡本谷崎氏方より。	*
67	*	昭和5年9月9日	葉書	佐藤龍児		*
68	*	昭和5年9月27日	封書	佐藤豊太郎	館だより28号、29号 千代の書簡同封。病春安臥太平之図。	*
69	*	昭和5年9月29日	封書	佐藤豊太郎	千代の書簡同封。	*
70	*	昭和5年10月7日	封書	佐藤豊太郎	館だより29号 千代の書簡同封。病中名月。	*
71	*	昭和5年10月7日	葉書	佐藤豊太郎		*
72	*	昭和5年10月10日	封書	佐藤豊太郎	館だより29号 千代の書簡同封。	*
73	*	昭和5年10月11日	封書	佐藤龍児	「万葉研究に熱中」とある。	*
74		昭和5年10月11日	封筒のみ	神代種亮		
75	*	昭和5年10月14日	封書	佐藤龍児	千代の書簡同封。	*
76	*	昭和5年10月17日	封書	佐藤豊太郎	館だより29号 故園秋夜之図。病人歩行ヲ試ム五六歩の餘。	*
77	*	昭和5年10月18日	封書	佐藤龍児		*
78	*	昭和5年10月21日	封書	佐藤保子	歩行のけいこ。病状回復につけ、いつでも出かけて下さい、とある。	*
79	*	昭和5年10月22日	封書	佐藤龍児	有間皇子の反に興味。	*
80	*	昭和5年10月23日	封書	佐藤豊太郎	館だより28号 千代の書簡同封。イラスト交りのリハビリの様子。	*
81	*	昭和5年10月27日	封書	佐藤豊太郎	館だより29号 かなり回復。「昨今ハハ十二分快癒」「ヒトリヲ庭園ナドモ散歩」とある。	*
82	*	[昭和5年10月]口日 (年月推定)	封書(封欠)	佐藤豊太郎(父上様、母上様)	春夫の代理としての千代の書簡。	*
83	*	昭和5年11月12日	封書	佐藤豊太郎	千代の書簡同封。鞠豪(豊太郎兼父)逝去。	*
84	*	昭和5年11月13日	葉書	佐藤豊太郎		*
85	*	昭和5年11月16日	封書	佐藤豊太郎	館だより28号 神戸の大丸など散策。	*
86		昭和5年11月29日	封書	妹尾健太郎	神と玩馬 ^{p64} 封筒裏裏、春夫自身中身は千代の手紙	
87		昭和5年11月30日	封書(封欠)	妹尾健太郎・或様	神と玩馬 ^{p65} 千代と連名	
88		昭和5年12月5日	葉書	妹尾健太郎・貴美子	神と玩馬 ^{p66}	
89	*	昭和5年12月17日	封書(封欠)	小林倉三郎	下里高芝から春夫。竹田龍児書写(龍児ノート記述より)	*

90		昭和5年12月21日	封書	妹尾健太郎 谷崎精二	既出	神と玩具p67	
91		昭和6年1月3日					
92		昭和6年1月20日	封書	妹尾健太郎		神と玩具p80	
93		昭和6年1月23日	封書	夕刊大坂新聞社 佐藤卯兵衛	既出	下里にて病氣療養中であるが執筆活動に意欲がうかがわれる内容。	
94		昭和6年1月28日	封書	妹尾健太郎		神と玩具p94	
95		昭和6年2月7日	封書(封欠)	神代禎亮			
96		昭和6年2月10日	封書	妹尾健太郎		神と玩具p95 千代と連名	
97		昭和6年2月16日	封書・書留	佐藤智恵子	既出	「当地は白魚獲れ始めた。夏樹も上京予定。ゲーテ全集昨日着。川上澄生著「えげれすい」は「面白いVないか」等の書簡。	
98	*	昭和6年2月22日	封書	佐藤龍児 佐藤智恵子		駄子の学校の件。	*
99	*	昭和6年2月25日	葉書	佐藤龍児		駄子、今日岡本へ帰る。	*
100		昭和6年2月27日	葉書	妹尾健太郎		神と玩具p99	
101		昭和6年3月3日	封書	妹尾健太郎		神と玩具p100	
102	*	[昭和6年13月6日 (年推定)]	封書	佐藤龍児			*
103		昭和6年3月9日	封筒のみ	妹尾健太郎		神と玩具p101	
104	*	[昭和6年13月19日 (年推定)]	封書	佐藤豊太郎		下里から神戸岡本へ船旅、帰着。	*
105	*	昭和6年3月30日	封書	佐藤豊太郎		昨日奈良に赤賀直哉訪問。仲人承諾。	*
106		昭和6年4月5日		内山完造	既出		
107		昭和6年4月7日	封書	妹尾健太郎		神と玩具p102	
108		[昭和6年15月22日 (年推定)]	封書(封欠)	妹尾健太郎		神と玩具p121	
109		[昭和6年16月5日 (年推定)]	封書(封欠)	妹尾健太郎		神と玩具p132	
110		昭和6年6月18日	封書	妹尾健太郎		神と玩具p147	
111		昭和6年7月20日	封書	妹尾健太郎		神と玩具p173	
112		昭和6年8月8日	封書	土屋二郎		S6.8付書簡の写真、館にあり。	
113		昭和6年5月14日	封書	妹尾健太郎		神と玩具p105	
114		昭和56年12月25日	封書	妹尾健太郎		神と玩具p22	
115		昭和6年12月10日	封書(封欠)	神代禎亮			
116	*	昭和7年1月29日	封書	佐藤秋雄		「維納の殺人容疑者」成立経緯。	*
117		昭和7年3月6日	封書	妹尾貴美子		神と玩具p267	

118	*	昭和7年4月2日	封書	佐藤豊太郎	千代(米子)歳妊報告。	*
119		昭和7年4月10日	封書	妹尾徳太郎	神と玩鳥p269 校歌の件	
120		昭和7年4月22日	葉書	妹尾徳太郎	神と玩鳥p270	
121	*	昭和7年4月25日	(写真)葉書	谷崎潤一郎 谷崎鮎子	春夫、千代、智恵子、手古奈神社宴席写真。	*
122		昭和7年6月30日	封書	妹尾徳太郎	神と玩鳥p282 校歌の件	
123	*	昭和7年9月22日	封筒のみ	佐藤豊太郎	中身なし。	*
124		昭和7年11月6日	封書	妹尾徳太郎	神と玩鳥p313	
125		昭和7年11月13日	封書	妹尾徳太郎	神と玩鳥p313	
126	*	[昭和8年]1月31日 (年推定)	封書	佐藤豊太郎	秋雄の保険金のこと。秋雄への苦言。	*
127	*	昭和8年2月12日	封書	佐藤豊太郎	方哉順調に養育。「懐旧」やっと思本。	*
128	*	[昭和8年]3月1日 (年推定)	封書	佐藤豊太郎		*
129		昭和8年4月9日	葉書	妹尾徳太郎・貴美子	神と玩鳥p337	
130	*	[昭和8年6月]4日 (年月推定)2通	封 夏樹持参	佐藤豊太郎	「熊野路」成立の経緯。鉄道問題に言及。	*
131	*	昭和8年6月29日	封書	佐藤豊太郎	鉄道問題経緯。木悅長歌読解。	*
132	*	[昭和8年]12月15日 (年推定)	封書	佐藤豊太郎	和歌山市、南紀芸術社気付、とある。	*
133	*	[昭和8年]12月15日 (年推定)	封書	佐藤豊太郎	鉄道問題。	*
134	*	昭和8年3月17日	封書	佐藤豊太郎	鉄道問題。猪俣氏の報告。和歌の浦のあしべやより。	*
135	*	昭和8年3月24日	絵葉書	佐藤豊太郎	(裏面の句)和歌浦の松みなけむり春の雨。	*
136		昭和9年4月22日	葉書	「旋風時代」の会	日近文	
137		昭和9年6月8日		東京日日新聞社 高原四郎	文壇	
138		昭和9年8月1日	絵葉書	那須辰造		
139		昭和9年9月3日		吉井勇	既出	
140	*	昭和9年10月10日	封書	佐藤豊太郎	不眠症に悩みながら、新着二種、柳水譚と自叙伝風短篇三種(「我が成長」校正に忙殺。	*
141	*	昭和10年4月16日	葉書	佐藤龍児	法然上人正伝落手。	*
142	*	昭和10年5月29日	葉書	佐藤豊太郎	印章の件もあり。6月5日付づく。	*
143	*	昭和10年6月22日	封緘葉書	佐藤龍児	モラエス七周忌に文芸懇話会代表列席のため26日燕で下坂。	*
144	*	昭和10年6月30日	封書	佐藤豊太郎	徳島の鶴亀旅館より。モラエス七周忌に徳島へ来遊。	*
145		昭和10年8月31日		阿部真之介	文壇	
146		[昭和10年]□月□日 (年推定)		高原四郎	既出 文壇	
147		[昭和10年]□月□日 (年推定)		高原四郎	既出 文壇	

148		〔昭和10年〕10月10日	(年推定)		高原四郎	既出	文壇	
149		〔昭和10年〕10月10日	(年推定)		高原四郎	既出	文壇	
150		〔昭和10年〕10月10日	(年推定)		高原四郎	既出	文壇	
151		〔昭和10年〕10月10日	(年推定)		高原四郎	既出	文壇	
152		〔昭和10年〕10月10日	(年推定)		高原四郎	既出	文壇	
153		〔昭和10年〕10月10日	(年推定)		高原四郎	既出	文壇	
154		〔昭和10年〕10月10日	(年推定)		高原四郎	既出	文壇	
155		〔昭和10年〕10月10日	(年推定)		高原四郎	既出	文壇	
156		〔昭和10年〕10月10日	(年推定)		高原四郎	既出	文壇	
157		〔昭和10年〕10月10日	(年推定)		高原四郎	既出	文壇	
158		昭和11年5月17日	封書		淀野隆三	既出	「精々御辛棒さなれ一日も早く将来の御方針を見定めて御上京の運び致され度」とある。千代夫人への築物遺贈の御礼文もあり。	
159		昭和11年6月7日	葉書		芥川文		日近文No314掲載	日近文
160		昭和11年9月20日	封書		野村伝四		巻紙	神奈文
161	*	〔昭和11年〕12月16日	(年推定)2通	封書	佐藤豊太郎		別に「枚日付なしの豊太郎宛手紙有り。新年月の創作の注文一向になし。木挽哀歌の書き置き。	*
162		昭和12年12月21日	封書・速達	大坂中央放送局文芸課	南江二郎	既出	「黎明東亜曲」(東天紅)の歌詞改めなど。	
163		昭和12年12月29日	電報	大坂中央放送局文芸課	南江二郎	既出	「ゲンコウウツトラレンカ ヘンセヨ サトウ」とある。	
164	*	昭和13年1月10日	封書・速達	佐藤豊太郎	佐藤豊太郎		三好達治と智恵子のこと。離婚危機、善夫の仲介。	*
165	*	昭和13年8月25日	封書	佐藤豊太郎	佐藤豊太郎		軍として派遣報告。久米菊池連への反発。	*
166	*	昭和13年9月13日	葉書	佐藤豊太郎	佐藤豊太郎		上海待参の熊野三山のお守り。	*
167	*	昭和13年10月13日	葉書	佐藤豊太郎	佐藤豊太郎		従軍詩集一卷出来そう。	*
168	*	〔昭和14年〕12月16日	(年推定)	封書	佐藤豊太郎		夏樹夫詩書簡同封。龍児婚約のことに言及。千代歌血症で入院治療。	*
169	*	昭和14年〔4月〕11日	(月推定)	封書(封欠)	佐藤豊太郎		「取りまぎれてご無沙汰」とあり。龍児胎子の婚約も「用意手ぬかり」などある。	*
170	*	昭和14年6月8日	葉書		竹田龍児			*
171		昭和14年7月13日	葉書	中央公論社	嶋中雄作			神奈文
172	*	昭和14年10月11日	封緘葉書		佐藤豊太郎		中央公論小説五十枚脱稿。水滸伝に取られる段取り。	*
173		昭和14年11月22日	封書	中央公論社内	松下英麿	既出	「貴兄の手おちでない事はよく存じて居りますが、作家に對する不親切は、近ごろ御自身がその筆頭と不快に存じて居ります」原稿不採用に對する怒り。	*

174		昭和14年12月17日	葉書	久米久雄		シガレットケースのプレゼント札。		
175	*	昭和15年3月13日	葉書	佐藤智恵子	既出	病人の症状よく近く連院。明日でも父上に糟屋の件話す。		*
176	*	昭和15年9月3日	封書	新潮社 菊池重三郎	館だより19号			*
177	*	〔昭和16年〕11月3日 (年推定)	封書(封欠)	佐藤豊太郎		漢州航空株式会社から社歌依頼。		*
178	*	〔昭和16年〕7月13日 (年推定)	封(托幸便)	佐藤豊太郎		昨年の少年少女文壇支那文学選大いに売れ、谷崎が担当であった日本文学選も善夫の担当に。		*
179		昭和16年8月19日		佐藤豊太郎	既出	熊野誌第55号に全文掲載。		
180	*	昭和16年9月27日		関昌信	既出			*
181		昭和16年11月16日	絵葉書	宮田重雄				神奈文
182	*	昭和16年12月15日	封書・書留	佐藤豊太郎		秋雄の埋骨のこと。下里相續人保子姉選定のこと。秋雄妻への苦言。		*
183	*	〔昭和16年〕口月口日 (年推定)		関昌信	既出			*
184	*	昭和17年3月30日	葉書(印刷)	菊池重三郎	既出	館だより19号(豊太郎会葬お礼(印刷))		*
185	*	昭和17年5月4日	封書(封欠)	方紀生		館だより24号		*
186		昭和18年6月9日		吉井勇	既出			京都府立総合資料館
187	*	昭和18年9月3日	封書	佐藤豊太郎		方載入院中。職況樂觀。状況を話す。		*
188		昭和19年9月16日	封書	生田まり子				神奈文
189		〔昭和20年〕3月31日 (年推定)		佐藤保子	既出	熊野誌第55号		
190	*	昭和20年5月31日	封書	新潮社 菊池重三郎	既出	館だより19号		*
191	*	昭和20年7月17日		方紀生				*
192	*	〔昭和21年〕2月13日 (年推定)	封書	菊池重三郎	既出	館だより19号		*
193	*	昭和21年5月2日	葉書	菊池重三郎	既出	館だより19号		*
194	*	昭和21年6月29日	葉書	竹田龍児		「ホロ家の建坪は五十五坪二分五厘」とある。		*
195	*	昭和21年7月8日	封書	竹田龍児		乗燭譚到着。七百円の荷風全集も入手。		*
196	*	昭和21年7月18日	封書	竹田龍児				*
197	*	〔昭和21年〕7月18日 (年推定)	封書	竹田龍児		鎌倉書房の選集の件、芸術院会員の件。		*
198	*	〔昭和21年〕9月3日 (年推定)	封書	竹田龍児		文芸春秋から出版の仲立ち依頼。		*
199		昭和21年9月28日	封書	佐藤正彰				神奈文
200	*	昭和21年10月9日	葉書	竹田龍児		パルザックの「風流滑稽譚」購入依頼。		*
201		昭和21年10月15日		城左門	既出			大田区立郷土博物館

202		昭和21年10月19日		葉書	實業之日本社出版部 神山裕一	既出	「松本地方へ小旅行の留守中に到着ために御返事が延引しました。拙文「桃を盗んだ子」を御使用の件は承諾致します」とある。	
203	*	昭和21年12月3日		葉書	竹田龍児		バイブル昨日着手、英米書の購入依頼。	*
204	*	昭和21年12月4日		封書・書留	菊池重三郎	既出	館だより19号	*
205		〔昭和21年〕12月7日 (年推定)		封書	實業之日本社内 神山裕一	既出	「目下の出版界に対する不満なども手つたひととある。	
206	*	昭和21年12月21日		葉書	菊池重三郎	既出	館だより19号	*
207	*	昭和21年12月30日		葉書	菊池重三郎	既出	館だより19号	*
208	*	〔昭和21年〕〇月〇日 (年推定)		封書 共立書店 佐義君待参	竹田龍児		紙の入手のことなど。	*
209		昭和22年2月3日		封書	松村定孝			山梨県立文学館
210	*	昭和22年2月5日		葉書	菊池重三郎	既出	館だより19号	*
211	*	〔昭和22年〕12月〇日 (年推定)		封(托幸便)	竹田龍児	既出	北佐久の長者春より。花柳夢遊去に關し。	*
212		昭和22年3月11日		封書	昭和書房 手塚廣子	既出	「一部数は一萬部以上 二 印税は一部五分(34略)右の條件を御来引の上ならば何時お出かけ下さっても御交際に応じます」佐久平最付様様より発信。	
213	*	昭和22年5月25日		葉書	菊池重三郎	既出	館だより19号	*
214	*	〔昭和22年〕6月29日 (年推定)		封書	竹田龍児		印と長城先生遺墨など送付依頼。	*
215	*	昭和22年7月5日		封書	西川満		「殖民地の旅」A君のモデル許嶋美への言及あり。	*
216		昭和22年8月6日		葉書	芥川比呂志		春夫ほかとあり	日近文
217		昭和22年8月28日		葉書	國崎康隆			日近文
218		〔昭和22年〕12月2日 (年推定)		葉書	保田與重郎	既出		
219	*	〔昭和22年〕〇月22日 (年月日推定)		葉書	竹田龍児		「長男が階段から落ちた由」と諸注意。	*
220		昭和23年1月15日		葉書	島崎藤助			日近文
221	*	〔昭和23年〕1月17日 (年推定)		葉書	島崎棉雄、菊池重三郎	既出	館だより19号	*
222	*	〔昭和23年〕12月10日 (年推定)		封書	竹田龍児		鎌倉書房見本。「殉情詩集」「日本の母」「ぼるとる文」出版計画。	*
223	*	〔昭和23年〕6月16日 (年推定)		封書	竹田龍児		松枝氏の中国の小説面白い。武田泰淳の才子佳人と来た。	*
224		昭和23年10月12日		葉書	文章世界社			日近文
225	*	昭和24年1月19日		葉書	竹田龍児		「白水社のモオパン購置についてほしい。」	*
226		昭和24年1月27日		封書	鎮取秀樹	既出	疎開先の道案内「極寒極暑の日でない限りよい散歩程度の野の路です」とある。	
227	*	昭和24年3月29日			神保光太郎	既出		*
228		昭和24年4月13日			神保光太郎			

229	*	昭和24年5月1日	葉書	汐崎慶三	既出	宛名は新宿中学同級生。高野町歌の制定経緯がわかる葉書	*
230		昭和24年8月17日		森於菟	既出	文京区立森鷗外記念館 NEWS No.9	
231	*	昭和24年8月26日	葉書	菊池重三郎、夫人	既出	館だより19号	*
232	*	〔昭和24年8月〕□日	封(托幸便)	竹田夫妻		佐久の貧老者事佐藤春夫より。千代の書簡も。長男宛ひらがな書きも同封。	*
233	*	〔昭和24年〕9月3日	封書	芝書店 芝本善彦	既出		*
234	*	〔昭和24年〕10月31日	葉書	菊池重三郎	既出	館だより19号	*
235	*	昭和25年5月16日	葉書	佐藤方哉		春夫絵入、佐藤春夫読本P164	*
236	*	昭和25年6月13日		吉村淳子	既出		*
237	*	昭和25年7月23日	封・速達	佐藤方哉 竹田鮎子		方哉、鮎子への平根邸への道筋。	*
238		昭和25年7月26日	葉書	光永鑑夫	既出	光永は、昭和24年上半期「雪明り」で芥川賞候補に。本書贈の礼状。	
239	*	昭和25年8月8日	封書	竹田龍児		隣家との境界の件。国訳幸田本、和装平岡本など送ってほしい。	*
240	*	昭和25年9月7日	葉書	若林芳樹			*
241	*	〔昭和25年〕10月16日	封書	福島幸重	既出		*
242		昭和25年11月2日	葉書	光永鑑夫	既出	「百合(よろ)は方言に倣 おけち(…)にどいとき(…) みな山の草木の名にてその芽を食用に致し候 川原は鯛子に よってカワハラとよませたし」とある。	
243		昭和25年11月11日	葉書・速達	川田順	既出	「十七日午後文化学院 ウィ氏に会見の事 御取計らひ下され御礼申上ます」とある。	
244	*	〔昭和26年〕6月6日	(年推定)	ステグナア教授への返事		昭和26.5「三田文学」に「ウオーレス・ステグナー氏夫妻を囲みて」座談会に春夫出席。	*
245	*	昭和26年7月14日	封書	方紀生		館だより24号	*
246		昭和26年8月21日		若林禎一	既出		
247		昭和26年□月□日	葉書	山本実彦氏文化界復帰祝賀演劇会準備会		発起人に承諾するとともに「志賀直哉も拝読」と記す。	
248		昭和27年4月29日	葉書(印刷)	堀田善衛			神奈文
249		昭和27年7月28日	葉書	湯浅光雄		「晶子曼荼羅」に関するもの。	
250		昭和27年10月28日	葉書	井上靖			神奈文
251	*	昭和27年12月29日		山本茂	既出		*

252	*	昭和28年1月14日			山本茂	既出			*
253		昭和28年9月11日	葉書		詩の座編輯部 大木惇夫	既出	「立派な詩集が出来ましたね、お喜び申し上げます。さてお云ひつけの評論めいたもの何か執筆してみませう」とある。		
254		昭和28年11月18日			長谷川芳美	既出			青森県音楽資料保存協会
255		昭和28年11月19日			長谷川芳美	既出			青森県音楽資料保存協会
256		[昭和28年]口月口日 (年推定)			長谷川芳美	既出			青森県音楽資料保存協会
257		昭和29年8月23日			吉井勇	既出			京都府立総合資料館
258		昭和29年9月16日	封書		大阪書籍株式会社東京支社		「少年世界文学めぐり推薦文案」の原稿在中も、出版されなかったと思われる。		
259		昭和29年12月28日			斎藤一 (河出書房)	既出	屏風に貼られた書簡の写真が当館に所蔵。		
260		昭和30年1月頃	葉書		小川龍彦	既出	石川啄木に関するアンケート回答。		
261		昭和30年7月5日	封書		小川龍彦	既出	館だより16号		
262		昭和30年7月6日	葉書		小川龍彦	既出	館だより16号		
263		昭和30年8月14日	葉書		小川龍彦	既出	館だより16号		
264		昭和30年8月25日	葉書		小川龍彦	既出	館だより16号		
265		昭和30年9月30日	封書		小川龍彦	既出	館だより16号		
266		昭和30年10月24日	封書		小川龍彦	既出	館だより16号		
267		昭和30年12月30日	封書		小川龍彦	既出	館だより16号		
268		昭和30年口月口日	封書(封欠)		武重徳衛		武重は、長野県酒造組合の青年会である若葉会の役員をしていた。会歌草稿の後に武重の結婚挨拶等が記されている。		
269		昭和31年1月24日	封書		小川龍彦	既出	館だより16号		
270	*	[昭和31年]2月23日 (年推定)			岡嶋輝夫	既出			*
271		昭和31年6月11日	葉書		小川龍彦	既出	館だより16号		
272		昭和31年6月15日	葉書		室生犀星		芝居切符送られたことへの礼状。「おかげで夫妻にて拝見します」とある。		和果園
273		昭和31年9月22日	封書		小川龍彦	既出	館だより16号		
274		昭和31年10月23日	絵葉書		小川龍彦	既出	館だより16号		
275	*	昭和33年5月23日			原雅子	既出			*
276	*	昭和33年6月23日	葉書		汐崎慶三		お菓子惠贈の礼状。		*
277	*	昭和33年7月5日			岡嶋輝夫	既出			*

278	*	昭和33年〔9月〕2日	(月推定)	葉書	汐崎 隆三		「お申し越の原稿は去年夏、信州へ原稿作成の参考のため持参したまま只今手元には手元にありません」とある。	*
279	*	昭和33年□月□23日		葉書	汐崎 隆三		紀州みかん惠報の礼状。	*
280	*	昭和34年7月9日		葉書	汐崎 隆三		「目下非常に多忙のためやつと一週間ほど暇を見つけて出かけるので和歌山の方までまわる時間を待たない」と断辞。	*
281		〔昭和35年〕3月25日	(年推定)	封書(封欠)	梅沢 武次			日近文
282	*	昭和35年11月1日		葉書	渡辺 朔朗	既出		*
283		昭和36年6月26日		葉書	林 一郎	既出	送ったと言う原稿が届いていないとの連絡葉書。	
284	*	昭和36年6月28日		葉書	渡辺 朔朗	既出		*
285		昭和36年7月24日		封書	門田 実		巻紙	神奈文
286		昭和36年8月1日		葉書(印刷)	尾崎 一雄			神奈文
287	*	昭和36年9月15日		封書	小泉 信三	既出		*
288		昭和37年3月31日		葉書	式場 隆三		横 啓著 歌集「深巷」出版記念会への参加断絶(先約があるため)。	
289	*	昭和37年5月17日		絵葉書	小泉 信三	既出		*
290		昭和37年9月18日		葉書	山宮 允	既出	著書受取お礼。「先日はお名前前の文字を誤記し甚だ失礼いたしました。わたくしはむかしからそそっかしく文字もうろおぼえて、よくまちがへ…」とある。	
291		昭和37年10月□日		往復葉書(返信)	花出版社内「夏の画集」出版記念会世話人	既出	出欠返事(欠席)	
292	*	昭和38年7月31日			岡嶋 彌夫	既出		*
293	*	昭和38年10月15日		封書	小泉 信三	既出		*
294	*	昭和38年11月4日		葉書	渡辺 朔朗	既出	新中会(新宮中学同窓会)出欠葉書	*
295		昭和38年11月18日		葉書	北川 冬彦	既出	「当日は生憎と京都へ旅行中の予定。失礼をおゆるし下さい」とある。	
296		昭和□年2月10日		封書	石橋 万喜夫	既出	「酒田市に拙著を多く蒐集所蔵している人がいますので、先にその人に「ピノチオ」の借りを頼んで置きました」とある。	
297		昭和□年3月6日		封書(封欠)	梅山 潤	既出	「小生は五十円以下では書く気はありませんからその旨御含み願下ささい」とある。	
298		昭和□年□月□日			谷崎 精二	既出		
299		昭和□年□月□日			谷崎 精二	既出		

300		昭和□年□月□日		封書	新潮編集部	既出	一面日中に必要が生じたので、稿料即日にもいただきたい旨の懇願書簡。	
301		□年3月22日		封書(持参)	室生犀星		巻紙、渡利節男持参。持参人の面会許諾要請。	和果図
302	*	昭和□年4月11日		封書(托幸便)	佐藤豊太郎		太田博士の診断結果報告。仕事、喫煙制限なし。神奈川の土地の件。	*
303	*	昭和□年7月3日		葉書	竹田龍児		方蔵全体の報。「母上になつき母上もご満足。」	*
304	*	昭和□年8月29日		封書	佐藤豊太郎		竹田龍児書写(龍児ノート記述より)。雲様七くし梅み状。	*
305	*	昭和□年11月8日		(別便)	小林倉三郎		佐久の長者「遠からぬ将来に再び東洋熱いかなる形でかが必ずこの感あるべしと信じます」とある。	*
306	*	昭和□年12月2日		封書(托幸便)	竹田龍児		武蔵野書院主人来訪。「萩原君と御出下さるとの事、たのしみになります。」とある。	和果図
307		昭和□年12月16日		葉書	室生犀星			日近文
308		□年12月21日		封書	伊藤海彦			
309	*	昭和□年□月□日		封書(封欠)	佐藤保子		もも子の治療。熊野地みかん山の地、青年訓練所設立につき藤渡の件。	*
310	*	昭和□年□月□日		封書	佐藤豊太郎		母上上京の趣、方蔵ヘントウセン、定期的に買合わせ。	*
311	*	昭和□年□月□日		封書(封欠)	鮎子、長男(たけだながをちゃん)		「佐久の長者も財界不振の余波を蒙り」とある。	*
312	*	昭和□年□月□日		封書	汐崎慶三		鉛筆書き。宛先は新宮中学同級生。	*
313		昭和□年□月□日		封書(封欠)	堀口長城		堀口九萬一(堀口大学の父)宛。	
314		昭和□年□月□日		葉書	野間宏			神奈文
315		昭和□年□月□日		封書(封欠)	佐藤正彰			神奈文
316		昭和□年□月□日		葉書(印刷)	「古東多万」寄稿依頼状		「古東多万」寄稿依頼状	日近文
317		昭和□年□月□日		封書	座右宝編集部		「ボルトガル文」復刻出版の件	日近文
318		昭和□年□月□日		封筒のみ	中央公論社会計部			山梨県立文学館